

地域におけるインフォーマルな社会的ネットワークの形成に関連する要因

—新たな友人を獲得した高齢者の特性—

○ 和洋女子大学 岡本 秀明 (3826)

キーワード：社会的ネットワーク、高齢期の友人の獲得、地域福祉

1. 研究目的

近年、地域における人と人とのつながりや絆の大切さが特に言及されるようになり、高齢者分野では、社会的孤立や孤立死とその予防に関心が集まっている。そのため、地域における社会的ネットワークの重要性があらためて注目されている。地域住民それぞれがある程度の社会的ネットワークを有していれば、地域福祉の増進に寄与するであろうし、特に高齢者であれば、孤立死の予防にもなるであろう。本研究では、社会的ネットワークのうちインフォーマルなものに含まれる友人関係に着目し、新たな友人を獲得した高齢者の特性を明らかにすることを目的とした。

2. 研究の視点および方法

千葉県都市部 4 市に居住の高齢者（65～79 歳）計 2,000 人を住民基本台帳から無作為抽出し、2010 年に郵送調査を行った。有効回答数（率）は 1067 人（53.4%）で、分析対象者数は、代理回答を除外し、基本的属性等の項目にすべて回答した 932 人とした。

調査項目と変数について、新たな友人の獲得の有無は、年内（過去約 8 か月間）に新たな友人を得たかどうかを尋ね、得た者を 1、得ていない者を 0 とした。新たな友人獲得の関連要因を検討するため、5 つの領域を設け、変数を用意した。心理的側面の領域には、地域貢献活動参加志向、他者に役立つ活動参加志向、人間関係広げる志向、若い世代との交流志向の 4 変数を用意した。それぞれ、4 段階でその志向の強さを尋ね、1 点（志向が弱い）～4 点（志向が強い）を付与した。個人的活動の領域には、近所づきあい、スポーツ・運動の 2 変数、社会的活動の領域には、趣味等仲間内の活動、町内会・自治会、老人クラブ、ボランティアの 4 変数、学習的活動の領域には、高齢者大学・高齢者向け教室、カルチャーセンター、講座・講演会・研修会の 3 変数を用意した。それぞれ、活動ありを 1、活動なしを 0 とした。イベント・活動への参加に誘う・誘われるについての領域には、イベント（催しもの）や活動に関して、一緒に出かけたり参加しませんかと誘われることがあるかどうか、一緒に出かけたり参加しませんかと誰かを誘うことがあるかどうかの 2 変数を用意した。それぞれ、そのようなことがある者を 1、ない者を 0 とした。

分析は、従属変数を新たな友人の獲得の有無、独立変数を各領域の変数、コントロール変数を年齢と性別（男性=1、女性=0）とし、領域ごとに二項ロジスティック回帰分析を

行った。なお、各領域の独立変数間の相関をスピアマンの相関係数により検討し、0.8以上の強い相関がないことを確認している。

3. 倫理的配慮

回答データは統計的処理し個人を特定しない、調査は無記名で行い、回答は強制ではないなどを協力依頼文書に明記した。調査票の返送をもって調査協力への同意とみなした。

4. 研究結果

単純集計結果に関して、分析対象者の基本属性は、平均年齢が71.1歳、性別は男性が51.2%、女性が48.8%であった。新たな友人を得たと回答した者の割合は23.9%、得ていない者は76.1%であった。

新たな友人の獲得の有無を従属変数とし、5つの領域ごとに二項ロジスティック回帰分析を行った。その結果、新たな友人の獲得に統計学的に有意に関連していた要因は、心理的側面の領域では、人間関係広げる志向、若い世代との交流志向であり、双方ともその志向が強いほど、新たに友人を得ていた。個人的活動の領域では、近所づきあい、スポーツ・運動、社会的活動の領域では、趣味等仲間内の活動、老人クラブ、ボランティア、学習的活動の領域では、講座・講演会・研修会が有意に関連しており、いずれも活動していない者よりもしている者のほうが、新たに友人を得ていた。イベント・活動への参加に誘う・誘われるの領域では、誘われることがある者、誘うことがある者が有意に関連しており、双方とも、そのようなことがない者よりもある者のほうが、新たに友人を得ていた。

5. 考察

高齢期においても、新たな友人とのネットワーク形成がある程度なされていた。5つの領域すべてに関連要因がみられ、幅広い内容のものが新たな友人獲得に関連していた。地域貢献活動参加志向、他者に役立つ活動参加志向が関連していなかったのは、他の2つの変数の志向の内容が他者との関係を築く内容であるのに対し、対人的ではなくて地域や他者に貢献する志向の内容のためと思われる。町内会・自治会が関連要因でなかったのは、活動メンバーが地縁関係による知人ではあるが友人関係にまで発展しにくいこと、近所で気があう者同士の場合はかなり前から友人関係をすでに築いていること、町内会・自治会活動は友人をつくって楽しむような活動というよりは近所同士で小地域をより良くするといった目的の活動であることなどが、理由として考えられる。すでに築かれた他者との関係や、一部の活動への参加が、高齢期に新たな友人を得ることに結びやすいため、さまざまな活動を開催したり、関心ある活動への参加を呼びかけるなどし、地域におけるインフォーマルな社会的ネットワークの構築の一助となるような関与や環境整備が望まれる。

[本研究は科学研究費補助金(22730444)の助成を受けて行った。]